

四国こどもとおとなの医療センター
成育部門外科系診療部長
岩村喜信氏

香川の医療最前線



●いわむら・よしのぶ 1983年岡山大学医学部卒。国立岡山医療センター、愛仁会高槻病院川崎医科大などを経て、2013年5月より現職。日本小児外科学会指導医、小児外科専門医、外科専門医。58歳。愛媛県宇和島市出身。

主に新生児から15歳までの子ども疾患を手術で治療する小児外科の分野は、

20年ほどで小児外科の手術にも広まってきている。

病気によっては体の成長とともに改善するものもある

体の負担を軽減する低侵襲手術が重視されるほか、家族への配慮も大切だ。四国こどもとおとなの医療センターの岩村喜信成育部門外科系診療部長に、手術の低侵襲化や家族ケアについて聞いた。

—具体的には。

小児外科で治療例が多い膀胱尿管逆流症は、従来は下腹部を切開する必要があったが、現在は膀胱鏡を使って切開しない治療法も選

—手術の低侵襲化とは。手術をする際、患者の負担をできる限り減らすことを考える。手術の方法や時期を適正化して、手術時間の短縮や術後の痛みの軽減、早期回復、手術痕の縮小などを目指す。小児外科に限らず、医療全般において重視されている。

小児外科で治療例が多い膀胱尿管逆流症は、従来は下腹部を切開する必要があったが、現在は膀胱鏡を使って切開しない治療法も選

—反応はどうか。医師が事前に手術の内容や流れについて説明することで、「見ているとよく分かった」という感想が圧倒的に

—手術の低侵襲化とは。手術をする際、患者の負担をできる限り減らすことを考える。手術の方法や時期を適正化して、手術時間の短縮や術後の痛みの軽減、早期回復、手術痕の縮小などを目指す。小児外科に限らず、医療全般において重視されている。

小児外科で治療例が多い膀胱尿管逆流症は、従来は下腹部を切開する必要があったが、現在は膀胱鏡を使って切開しない治療法も選

—反応はどうか。医師が事前に手術の内容や流れについて説明することで、「見ているとよく分かった」という感想が圧倒的に

小児外科の低侵襲化

手術の必要性から判断

実施状況を家族に公開も

—手術の低侵襲化とは。手術をする際、患者の負担をできる限り減らすことを考える。手術の方法や時期を適正化して、手術時間の短縮や術後の痛みの軽減、早期回復、手術痕の縮小などを目指す。小児外科に限らず、医療全般において重視されている。

—反応はどうか。医師が事前に手術の内容や流れについて説明することで、「見ているとよく分かった」という感想が圧倒的に

—反応はどうか。医師が事前に手術の内容や流れについて説明することで、「見ているとよく分かった」という感想が圧倒的に

—手術の低侵襲化とは。手術をする際、患者の負担をできる限り減らすことを考える。手術の方法や時期を適正化して、手術時間の短縮や術後の痛みの軽減、早期回復、手術痕の縮小などを目指す。小児外科に限らず、医療全般において重視されている。

—反応はどうか。医師が事前に手術の内容や流れについて説明することで、「見ているとよく分かった」という感想が圧倒的に

—反応はどうか。医師が事前に手術の内容や流れについて説明することで、「見ているとよく分かった」という感想が圧倒的に

—手術の低侵襲化とは。手術をする際、患者の負担をできる限り減らすことを考える。手術の方法や時期を適正化して、手術時間の短縮や術後の痛みの軽減、早期回復、手術痕の縮小などを目指す。小児外科に限らず、医療全般において重視されている。

—反応はどうか。医師が事前に手術の内容や流れについて説明することで、「見ているとよく分かった」という感想が圧倒的に

—反応はどうか。医師が事前に手術の内容や流れについて説明することで、「見ているとよく分かった」という感想が圧倒的に

—手術の低侵襲化とは。手術をする際、患者の負担をできる限り減らすことを考える。手術の方法や時期を適正化して、手術時間の短縮や術後の痛みの軽減、早期回復、手術痕の縮小などを目指す。小児外科に限らず、医療全般において重視されている。

—反応はどうか。医師が事前に手術の内容や流れについて説明することで、「見ているとよく分かった」という感想が圧倒的に

—反応はどうか。医師が事前に手術の内容や流れについて説明することで、「見ているとよく分かった」という感想が圧倒的に

—手術の低侵襲化とは。手術をする際、患者の負担をできる限り減らすことを考える。手術の方法や時期を適正化して、手術時間の短縮や術後の痛みの軽減、早期回復、手術痕の縮小などを目指す。小児外科に限らず、医療全般において重視されている。

—反応はどうか。医師が事前に手術の内容や流れについて説明することで、「見ているとよく分かった」という感想が圧倒的に

—反応はどうか。医師が事前に手術の内容や流れについて説明することで、「見ているとよく分かった」という感想が圧倒的に

手術の低侵襲化

患者の負担をできる限り軽減する

- ・手術時間の短縮
- ・早期回復
- ・術後の痛み軽減
- ・手術痕の縮小など

小児外科では…

- ・手術が本当に必要か
- ・必要ならば時期、方法をどうするか

病状や子どもの成育状況を考慮し、総合的に判断

—他の取り組みは。胎児に先天性の病気や染色体異常がないかを調べる「出生前診断」を受けた母親へのサポートを充実させている。医療技術の進歩で早期に異常を発見できるようになり、対処の幅が広がった分、発見から出産までの期間は長くなった。精神的にづらい状態が続く場合もあるため、心のケアは1層大切になっている。妊婦や家族の不安が少しでも和らぐように、産科や新生児科、小児外科の医師が連携し、妊娠から出産後まで医療チームとして寄り添う態勢を整えている。

■ 四国こどもとおとなの医療センター小児外科

4人の医師が所属。小児外科の手術件数は四国で最大規模の年間300~350例。日本小児外科学会の認定施設として、小児外科専門医の養成も行う。
所在地：善通寺市仙遊町2-1-1
電話：0877(62)1000
<http://www.shikoku-med.jp>